

金子章道先生 特別会員推薦書



金子章道先生は、昭和37年に慶應義塾大学医学部をご卒業後、同大学医学部生理学教室の富田恒男教授に師事し、“網膜視細胞の光応答が三原色説にもとづくものであること”を証明され、医学博士を取得されました。この研究は富田教授がCold Spring Harbor Symposiumで報告されたデータの根幹をなす実験で、視細胞の応答が三原色説にもとづくものであることを報告した画期的な研究であり、現在も多くの教科書に引用されている業績です。昭和43年にはHarvard大学のHubel, Wiesel博士の教室に留学され、光応答を記録した網膜神経細胞の形態を蛍光色素で染めて確認するという手法を開発されました。金子先生はこの手法を用いて、今まで網膜神経細胞から記録されていたさまざまな光応答がそれぞれどういった神経細胞起源のものであるのかを明らかにされました。この研究は当時大変画期的な研究で、ARVOと呼ばれるアメリカ最大の視覚と眼科の学会で発表されたときにはstanding ovationを受けるほど大変な反響がありました。

昭和54年に生理学研究所神経情報研究部門教授として赴任されてからは、網膜の各神経細胞の電流応答をイオンチャンネルレベルで記述し、網膜神経細胞の応答を理解するという研究に着手されました。この一連の研究は、視細胞から双極細胞へいたる視覚情報処理メカニズムの理解に大きく寄与するものでした。平成3年に慶應義塾大学医学部生理学教室に異動されてからは網膜薄切片標本を用いて網膜神経細胞における受容野形成のメカニズムについての研究をすすめられ、受容野周辺部の形成に水平細胞から放出されるプロトンが関与しているという新しい仮説を提唱されました。この仮説は海外でも注目されているものです。

金子章道先生はこれまで一貫して網膜生理学の研究をされてこられ、その研究成果は国内国外を問わず高い評価を得ているものばかりです。平成15年には生理学研究所、慶應義塾大学、総合研究大学院大学からそれぞれ名誉教授の称号が授与されました。

金子章道先生は生理学会においても数々の貢献をされていらっしゃいます。先生は昭和38年に生理学会に入会され、その後生理学会常任幹事（昭和62年～平成17年）、日本生理学雑誌編集委員および委員長（平成5年～14年）、Japanese Journal of Physiology 編集委員および委員長（昭和60年～平成9年）を歴任されました。平成14年から17年まで日本生理学会会長を務められました。また、生理学会を代表して国際交流もすすめられ、平成9年から21年まで国際生理科学連合（IUPS）の役員を務め、最後の4年間はIUPSのPresidentとして第36回IUPS大会（京都）の誘致に大きな貢献をされました。さらに先生は、文部省学術審議会専門委員ならびに日本学術振興会専門委員として、長年にわたり、日本生理学会発展のためにご貢献してこられました。

以上述べてまいりましたように、金子章道先生の日本生理学会への功績は多大なるものがあり、特別会員としての資格を十分に満たしているものと考えます。つきましては日本生理学会会則に基づき、特別会員として推薦者一同ご推薦申し上げる次第であります。

金子章道先生は星城大学リハビリテーション学部教授を勤められた後、畿央大学健康科学研究科・研究科長として、現在も後進の指導育成に務めていらっしゃいますことを申し添えます。

推薦人（順不同）

日本生理学会評議員				日本生理学会評議員				藤田保健衛生大学医学部	教授	宮地 栄一
日本医科大学	教授	金田 誠		日本生理学会評議員				埼玉医科大学医学部	教授	渡辺 修一
日本生理学会評議員				日本生理学会評議員				広島修道大学	教授	高橋 恭一
東京大学大学院				日本生理学会評議員				大阪大学大学院		
人文社会系研究科	教授	立花 政夫		大阪大学大学院				生命機能研究科	教授	河村 悟
日本生理学会会員				工学研究科	教授	八木 哲也		日本生理学会常任幹事		
大阪大学大学院				日本生理学会評議員				慶應義塾大学医学部	教授	岡野 栄之
大阪大学基礎工学部	教授	倉橋 隆		大阪大学基礎工学部	教授			日本生理学会評議員		
								慶應義塾大学医学部	教授	柚崎 通介